

減災 NEWS

近畿大学奈良病院DMAT災害対策委員会

文責：太田 千夏

vol. 22 2025. 12. 11

みなさん、こんにちは。令和7年11月に開催された奈良市総合防災訓練に、近畿大学奈良病院からDMAT隊として医師1名、看護師2名、調整員1名が参加しました。



訓練は、奈良市を震源とする最大震度7の地震（奈良盆地東縁断層帯地震）が発生したという想定で実施されました。地震の発生と同時に奈良市全域で建物や家屋の倒壊、道路の損壊、河川の決壊、さらには電気・水道・ガス・通信などのライフラインにも甚大な被害が発生しているという設定のもと、訓練が行われました。

消防団や地区の自主防災班、消防隊によって避難所や救護所が開設された後、医療チームであるDMATが現場に到着し、傷病者の状態を確認・評価し、必要な対応を判断しました。救護現場では、倒壊した家屋に下敷きとなっている傷病者に対し、限られた状況の中で可能な範囲の治療を行いながら救出活動を実施しました。また、救護所では重症度に応じたトリアージを行い、優先順位を決定し、すべての傷病者を自衛隊や救急隊と連携して病院へ搬送することができました。



本部では、二川医師が陣頭指揮を執り、他施設のDMAT隊と連携を図りながら的確な指示を出されました

救護所内では、辻谷看護師が指揮を執り、搬送されてくるすべての傷病者の状態を把握し、搬送の優先順位を的確に判断していました



今回、初めてDMAT隊員として訓練に参加させていただきました。天気はあいにくの雨模様でしたが、その分、現場の臨場感がよりリアルに感じられ、身の引き締まる訓練となりました。訓練とは思えないほど精密に再現された倒壊家屋には、実際に地区の消防団の方が下敷きとなる設定がされており、救助隊が電動のこぎりで家屋に穴を開け、狭い空間から傷病者を救出する場面もありました。近い将来、南海トラフ地震の発生が予測されています。奈良でも同様の被害が起き、今回のような倒壊家屋からの救出や、多数の傷病者の発生、さらにはSCU（広域医療搬送）の展開が必要となる日が来るかもしれません。災害はいつ起こるか分からないからこそ、今回の訓練を通じて「いざという時」に備える意識をさらに高めることができました。



今回、訓練に参加した奈良のDMAT隊員です
・奈良県総合医療センター：医師3名
・市立奈良病院：看護師2名
・近畿大学奈良病院：医師1名、看護師2名、調整員1名

ご意見やご感想、ご質問等ございましたら、【患者さまの声】にお願いします。
（患者さまの声は、2階正面玄関前カウンター、再診受付機脇、各デイルームに設置しています。）